



山行報告

◆ 高御位山縦走 (歩荷)



山行日：9月14日(日)

参加者：La 和田 SLa 澤田(律) 狩集 河合 嶋澤 西口 藤本

Lb 山本(正) SLb 尾越 石田 上田 苦瓜 野村 長谷川(孝) 村上

Lc 砂川(延) SLc 大谷 小山 田中(重) 田中(由) 田羅間(勤) 萬代 宮崎

Ld 瀬尾 SLd 佐々木 赤木 垣内 塩津 山下(雅)

行動記録：

(東コース) 長尾駐車場 8:20 発～北池登山口 8:37～北山奥山 9:16～高御位山(10:11 着)10:25 発～鷹巣山 11:23～鉄塔 11:45 着(昼食)12:15 発～百間岩 12:25～大平山 12:40～中所登山口 13:40～長尾駐車場 14:20

(西コース) 長尾駐車場 8:18 発～鹿島神社トイレ 8:40～中所登山口 9:00～百間岩南コル 10:00～百間岩 10:10～馬ノ背北尾根 10:55～高御位山(11:55 着・昼食)12:15 発～鉄塔 13:10～北池登山口 13:55～長尾駐車場 14:10



ちょっときびしかった全縦走

藤本

高御位山にはしょっちゅう登っている。久しぶりの全縦走。一人で登る時は端から端まで歩くつもりで出発しても途中、駐車場へ下る道が沢山あるので、いつも誘惑に負けて適当なところで折り合いをつけて下山してしまう。だから近くて遠いコースだ。

今回は各自で荷物を調整してどれくらいの重さを担いで歩き通せるかを確認し、各人の力量測定をやってみようということらしい。

当日の参加者が大勢いたので4班に別れて2班ずつ反対からこの長いコースを歩く。

A班7名は中所登山口から登ることとなったが、駐車場から登山口までの平地の歩行が結構長い。トイレを済ませて登山口に着いたのは9時近くなってしまった。

朝晩涼しくなりましたが、今日は青空が広がって絶好の登山日和。しかし、日除けになる木々が少ない高御位山ではちょっと暑すぎ。せめて風でも吹いてくれたらと思うが、ほとんど無風。



結果、汗が出るわ出るわ、しまいにはズボンはお漏らししたみたいにベトベトになってしまいました。(決してお漏らしではありません！)

リーダーが様子を見ながら比較的短い間隔で休憩をして頂き、有り難い。

一方、私は百間岩を越えたところでみんなのペースについて行くのが辛くなり、荷物を減らすことにした。2ℓのペットボトルを1本グループの方々に引き取って貰いました。

これくらいの重量(14.5kg)ならなんとか行けるかなと思ったのですが、「ワンセコンド、エネルギー、瞬間補給!」と、言うとおきのドリンクも買い込んでいたのに……。

甘かった。グループの皆さん、有難うございます。特に大半を引き取って貰った嶋澤さん、お疲れ様でした。

今日歩いてみて気が付いたのですが、北池登山口に下りた場合、長尾駐車場までがゆるい上りであるため、意外とくたくたになって体に堪える。登山の余韻を楽しむべきでしょうか？

今日はポッカトレニングということで、ザックに入るだけペットボトルを詰めてみたが、ちょっと重すぎたようです。今後の参考としたいです。5時間余り、まあ、みんな無事に歩き通せて良かった良かった。

◆ 鳥甲山 (秋山郷の名峰)



山行日：9月21日(日)～23日(火)

参加者：L 砂川(延) SL 佐々木 大谷 垣内 中村 西口

行動記録：

21日：JR糸魚川駅12:35発—上越IC13:14通過—南駅前14:33通過—切明温泉「雪あかり」(16:00着)

22日：ムジナ平登山口7:10発～万仏岩～白嵩頭9:42通過～鳥甲山頂(11:25着)
11:45発～屋敷登山口(15:10着)

23日：切明温泉「雪あかり」8:30発—JR糸魚川駅(12:30着)13:53発—帰路に着

溪谷美 秘境秋山郷

中村

糸魚川で借りたレンタカーは、山方面に向かっていく。ヒガンバナとそばの白い花のコントラストが美しかったし、段々畑での稲の刈取り作業もどことなくのどかだ。家の造りも珍しい3階建て。雪が深くなったら、2階から出入りできるように外階段がついている。これから、目指す秋山郷は、積雪量日本一(7m85cm)を記録したこともある豪雪地だ。それに、日本の秘境百選に登録されているらしく、ワクワクする。国道といえど、土砂崩れ?で路肩工事のため、片側通行が数か所あったりして、道は狭くなっていく。

連なった山がいよいよ迫ってくる。目的の鳥甲山は、岩が絶壁で威厳のあるたたずまいを漂わせており、「おそれ多くも、この山を登るのか…」ちょっと不安になってしまった。

ともあれ秘湯の宿に到着した。レンタカーを降り、まず目が合ったのは、宿の方ではなくタヌキたち兄弟?親子?だった。



じーっと見つめられてしまった。「河原の温泉」へ散歩しているときも、タヌキがうろうろしていた。この子たちはお利口だけれど、登山口にいたタヌキは隙がない。草むらからひょこっと出てきて、置いてたリュックをくわえ、引きずっているではないか、とっさに気が付き、引っ張りっこして、諦めさせた。

「河原の温泉」は、脱衣所もなければ、囲いもない実にワイルド。川岸に源泉があるが、かなり熱いので、川の水を混ぜ、いい湯加減にしないとイケない。もちろん湯船も自分流。ちょうど、スコップを担いで帰って行く、焼けた肌をもつ男性とすれ違った。彼が入浴している景色を想像してしまい、ちょっぴり恨めしかった。



ヘルメット着用の山行は、初めてなのでドキドキだった。出発前日、母が「そのヘルメットは、雨が降ったらきるん？」と聞く。そんなわけないやろ！と思ったが、あんまり心配かけても…と思って、「そうや！」と軽く流しておいた。難所の万仏岩だが、大普賢岳の終了山行でシュリングは体験済みだったので、慌てることはなかった。高度感あるコースも慣れれば、スリルを楽しみながら歩ける。稜線では、西方遙かなたに奥志賀高原のゲレンデが見渡せ、東方には苗場山がなだらかに拵がっていた。山頂からの下りは、急な斜面一直線で、膝腰がへこたれてしまった。そんな時、SLが「もう高御位山を3回くらい降りた感じ？」とか「この山が、上級者向け言うんは、この下りのことか？」など、愉快地元気づけてくれた。笑顔になれたひとは、しんどさを忘れることができ、本当にありがたかった。

帰宅して、体重計に乗るといつもより増えているではないか？心身共にきつい山行だったし、食事は土地柄、やまにんじん・またたび・やまみつば・ふき・マイタケなどの山菜やキノコ類。刺身・焼魚は川魚。といったメニューなのに…？ただ、ごはんのおかわりが過ぎてしまったようだ。魚沼産コシヒカリは、さすが美味しかった。

こんな秘境をともに体感できたメンバーに、感謝します。ありがとうございました。

◆ ゆっくリズム山行

紅葉の八幡平トレッキングと温泉を楽しむ



山行日：9月25日(木)～28日(日)

参加者：L 渡邊(俊) SL 荘所 大谷 金島 河合 砂川(美) 田羅間(勤) 舛賀

行動記録：

- 25日：姫路駅6:40 発—東京駅(9:43 着)10:20 発—盛岡駅(12:33 着)13:44 発—松川温泉「狭雲荘」(15:25 着)
- 26日：松川温泉「狭雲荘」8:10 発～登山口(8:15 着)～三ツ山荘(10:45 着)10:55 発～三ツ石頂上(11:50 着)12:25 発～登山口(15:00 着)15:25 発—八幡平ハイツ(15:5 着)
- 27日：八幡平ハイツ8:00 発—茶臼岳登山口(8:35 着)8:45 発～茶臼岳山頂(9:52 着)10:00 発～源太の森(11:47 着)12:10 発～陸雲荘(12:30 着)12:35 発～八幡平山頂(12:48 着)12:50 発～八幡平山頂レストハウス(13:10 着)14:40 発—玉川温泉(15:45 着)
- 28日：玉川温泉 11:05 発—田沢湖駅(12:25 着)13:11 発—東京駅(16:04 着)17:03 発—姫路駅(20:42 着)



9月25日朝、おりしも台風16号の影響を受けたのか予定の時刻20分遅れで新幹線姫路駅を出発です。車内放送では大雨のため静岡掛川あたりで列車が相当に遅れているとのこと・・・。久方ぶりの遠出山行に心うきうきのはずなのに車内アナウンスが気になりました。予定時刻より30分遅れの東京到着。私達8名は乗り換えの東北新幹線「はやぶさ13号」に飛び乗るや否や東京駅発車です。東北の見慣れぬ風景を車窓に見ながら明日に登る岩手の山に想いを寄せます。予定時刻きっちり12時30分には盛岡駅到着。そのころから雨は上がりお日様も見え、やっと旅の1日が始まったようです。

行き先は今夜の宿泊所、秘湯の松川温泉です。盛岡駅から2時間バスに揺られて到着です。

東北の日暮れは早く夕方4時には帳を下ろし始めるようです。乳頭温泉、硫黄の匂いの柔らかな湯に浸り、明日の晴天を祈り、空を見上げると満天の星です。きらきら瞬く大きな星です。三ツ星？冬の星座が？大きく見えました。久しぶりに見る夜空の星に願いをかけての山行1日目でした。翌日、なんて！私達は運がいいのでしょうか。空はどこまでも青く、高く、雲ひとつない朝が来ました。昨日到着したときには気がつかなかった宿泊所の周りは白樺林、ななかまどの林、すぐ傍に建つ松川地熱発電所から排気される蒸気、なんとも風情のある松川温泉でした。私達一行は、昨日のお天気などすっかり忘れ意気揚々と三ツ石山登山です。まずはミーティング時に聞いた400段の階段からの出発です。それほど急登ではなく、冷たい秋の空気と穏やかな陽気に乗せられたか苦手の階段も何とかクリヤ。



カエデの紅葉はこの東北独特の強い色、心の中も染めてしまいそうな赤色。倒木に生える「きのこ」たちのかわいらしさ、腐葉土の湿った匂い、空気、私の長い間あこがれていた東北の登山です。登り初めて3時間、11時すぎに三ツ石山小屋に到着です。先客数人に挨拶をして汗を拭き休憩です。あたり一面の湿原は、草紅葉真最中で秋風に揺られてなびく草原は天上の庭かと思わされます。一休みして向いに見えている三ツ石山頂に登ります。頂上にたくさんの登山者がいるのが見えます。右足故障中の私の足が悲鳴を上げますが、ここから元気を出して登ります。がらがら道の両脇は背丈の短い笹の群生、なんとなく氷ノ山の頂上に向っているような錯覚です。まだ残っていた“りんどう”が風に揺れます。

頂上が見えているのになかなか思うように登れません。後ろを振り向くとはるか東の方向に岩手山が大きく裾野を引く様子が見えます。やっとの思いに12時お昼、三ツ石山頂上に到着です。岩山の頂上にケルンがありその上に上って360度のパノラマを見ます。

まるで富士山かと思うよく似た岩手山、八幡平、秋田駒ヶ岳、鞍部に広がる湿原の草紅葉は絵に書いたよう。目下に見下ろす蒸気はふもと登山口の地熱発電所の冷却塔からの排気とか。ここは煙も届かない三ツ石山頂です。快晴に恵まれたきょうの日の山を私は決して忘れることができないと思う。旅館のおかみさんお手製の大きな塩おにぎり1個と田舎たくあんのお昼ご飯を済ませ私達は意気揚々と朝の出発地松川温泉に定刻下山しました。

400段の階段を滑らないように細心の注意を払いながらの下山です。気持ちの良い疲れはその夜の夕餉のビールの泡に解けて行きました。そして、明日は八幡平を目指します。



■ 9月27日

昨日と同様、好天气に恵まれ八幡平ハイツを計8名で送迎バスに乗り茶臼口バス停まで送ってもらい6名が降り、体調に不安のあった2名は最終の八幡平レストハウスまで行き途中で合流することにしました。6名でストレッチを行い、8時25分頃茶臼岳登山口を目指して出発。最初の登り口から急登で、私は昨日の三ツ石山山頂辺りから左足が痛くなり登り坂は、右足を先に出してその後左足を添えるようにして登りました。やっと茶臼山荘に到着。

休憩後5分位の場所にある茶臼岳山頂に登りました。山頂から眺めると、榎松やその周りは紅葉樹林帯に囲まれて、バランスのとれた良い景色でした。その後は、のこぎり状の木道と頭大位のゴロゴロ石の道で、黒谷湿地帯を眺めながら安比岳分岐を過ぎてから、源太の森を通り越したことに気が付き後戻りをして源太の森に登りました。



「昼時なので昼食にしよう」と、話をしていたところタイミング良く八幡平側から歩いて来た2名が、登ってきて合流しました。昼食後、「陸雲荘」、「八幡平山頂」へと湿地帯の中の遊歩道を散策したり、八幡沼、ガマ沼等の湖沼を眺め自然の風景に魅了されました。

そして最終目的地の「八幡平山頂レストハウス」に13時10分頃予定通りに到着しました。

全員でストレッチをして、秋北バス14時40分発（少し遅れて15時頃発）に乗り、玉川温泉に到着しました。ロビーでくつろいでいる時、御嶽山の噴火のニュースをテレビで観て大変驚きました。

■ 9月28日

3泊4日の山行も最終日となりました。今日も晴天に恵まれ帰るのみとなりました。

昨日宿泊した玉川温泉は、特殊な温泉地でしたので感じた事を記します。

玉川温泉は、国民保養温泉地で湯治に訪れる客が多く2～3週間滞在されるそうです。

私も昨夜温泉に入るまでは、左足が階段を上がるのがやっとでしたが、入浴後は痛みもとれて大変驚きました。

翌日、バスの乗車まで時間が有ったので玉川温泉の周辺を散策しました。公園の一角には微量のラジウム放射能を含有している北投石が、生成されており日本では唯一の温泉だそうです。又周りの岩穴の100箇所位から黄色い硫黄の煙を吹き上げており地面にゴザを敷いて寝袋で岩盤浴をしている人の姿が見られました。

最後になりましたがこの度、「ゆっくりズム山行」の計画をして下さったのに、澤田さんは、残念ながら参加出来なかったですが、克明に調べ網羅された資料でしたから全員無事に帰る事ができました。ありがとうございました。又リーダーを引き継がれた渡邊さんとSL荘所さんには、状況に応じて適切に対処しながらパーティーをリードして頂き感謝いたします。

◆西大台ヶ原・大普賢岳 (学習会B班錬成山



山行日：9月27日(土)～9月28日(日)

参加者：CL砂川(延) L森本 SL田中(良) 石田 篠原 田原 福原 前川(克) 前川(典)
山下(雅)

行動記録

9月27日(土)		
場所	着	発
山電高砂駅北		6:45
JR宝殿駅北	6:55	7:00
大台ヶ原駐車場	11:25	12:10
日出ヶ岳	13:00	13:10
正木原	13:50	
牛石ヶ原	14:15	14:20
大台ヶ原駐車場	16:05	16:25
和佐又ヒュッテ	17:15	
9月28日(日)		
場所	着	発
和佐又ヒュッテ		5:10
和佐又分岐	5:30	5:35
笹ノ窟	6:15	6:40
大普賢岳	8:35	8:50
笹ノ窟	10:45	10:50
和佐又分岐	11:25	11:30
和佐又ヒュッテ	12:15	12:50
JR宝殿駅北	17:00	



初めての大台ヶ原・大普賢岳

石田

1年間の学習会では、天気図の作成、概念図の作成、シルバコンパスの使い方、シュリング、ロープ結束等々山登りに必要最小限なことを学んだが、まさか60歳を超えてこんなに長く勉強しようとは夢にも思わなかった。

天気図の宿題にあたっては、こんなに真剣に取り組んだことは定年後、初めてのことで、ボケ防止には、非常に良かったのではないかと感じているところです。

学習会終了の総仕上げとして、大台ヶ原と大普賢岳の山行に行くことになった。

■ 1日目。

前回はレクチャー受講が必要な西大台であったが、今回は受講義務がない大台ヶ原コースである。大台ヶ原コースは、約4時間の周回コースである。

午前7時宝殿駅出発、第二神明から大阪環状線、西名阪を通り大台ヶ原駐車場に到着。

大阪環状線で交通渋滞に巻き込まれ30分遅く着いたため、周回コースでの食事は無理と判断し、駐車場で昼食を摂ることにした。

早々にストレッチをして、最初の1695mの日出ヶ岳に向かった。

途中の展望台では、ガスで熊野灘や尾鷲湾が見えず、10分程で登れる日出ヶ岳であっても、遠くに富士山が見えるということであったが全く見えなかったのが残念であった。

広大な丘陵に倒木、立ち枯れの樹木が広がる正木峠で、一瞬の晴れ間に熊野灘、尾鷲湾が見えた。満足！満足！

牛石が原では笹原の中に2～3メートル台の牛によく似た石があった。この牛に因んで牛石ヶ原と名付けたのかなと思った。特に感情なし・・・こんなもんやろう。

大蛇峠だいじゃくらという断崖絶壁の上に乗れ、大蛇の背に乗ったスリルを味わえるということだったが、私は高所恐怖症でとても先端まで行く勇気はなかった。先端に行かなくても手前で西大台ヶ原が一望でき、中の滝も見られ素晴らしい眺めだった。

大蛇峠から30分ほど下るとシオカラ谷に到着、ここには約10メートル位の吊り橋が架かっており、このころには、体力も消耗しており、溪谷美を楽しむ前に「急な登り」を思うととても景色を楽しむ余裕はなかった。

下りがあれば上りがあるのは当たり前のことなのだが、「ハイキングコースにこんな急登はないやろう」と心の中で怒っていました。しんどかった・・・。そして予定どおり、午後4時に駐車場に着き、今日の宿泊地である和佐又ヒュッテに向かった。

■ 2日目

大普賢岳は、奈良県の大峰山脈を形成する山の一つで大峰縦走線歩道おおみねおくがけみち(大峰奥駈道)上にある。古来修験道の山として山伏の修行の山である。

午前4時に起床、外に出てみると昨夜の星の数よりも2倍の星が出ていた。これが満天の星というのかな？と思った。(今まで見たことがない。)今日の山行は、「快晴・・・」と思うと嬉しかった。ストレッチ後、午前5時10分頃に出発、まだ暗かったが、歩いているうちに目も慣れ、午前5時46分に日の出、林の隙間からしばしの間、ご来光に見とれていました。

さて、本格的に登山を開始したものの、朝食抜きであったためにお腹が空いてきたので「しょうの窟いわやで食べよう」ということになった。窟なびきの窟は、大峰修験道の霊地75摩なびき(修験道の場所)のうち熊野本宮大社から数えて62番目の摩だそうだ。

そそり立つ岩壁の下に大きく開いたいくつもの窟がある中で一番大きな窟だ。この下には、岩(目測約50メートルの高さ?)から染み通ってきた水があり飲むことができた。「ま

ろやか」というか、うまかった。こんな窟で冬を越す生活(修行)するなんて、とても考えられない。凄いとしか言いようがありませんでした。

次に休憩したのが石の鼻でした。山頂は狭く、10人ほどしか立てない場所ですが、遠く大台ヶ原、弥山、釈迦ヶ岳が見渡せるそうだが、私は怖くて立つこともできず、見渡す余裕はなかった。石の鼻を出発すると、梯子、鎖場が出てくるようになった。

頂上近くが一番長い梯子を利用して、学



習会で学んだシュリング・ザイルを活用しての登山をすることになった。まず、シュリングは学習会ですのと現場ですのとでは、同じことでも勝手が違った。自分のしたシュリングに自信がなく、会長に「これでいいかな」と聞く始末だった。(笑!)転落する人もいなかったもので、全員うまくいったものと思う。

大普賢岳頂上ではガスって全く景色が見えなかったが、記念写真だけ撮って早々に下山。

残念 残念 残念。このまま下山するのは何か残念なので少し遠回りして、1344mの和佐又山に立ち寄ることになった。大普賢岳の頂上とは打って変わって快晴になった。

(日頃の行いが良かったのかな・・・?)

登って来た大普賢岳を見上げると「あんなところ登ったのか」と、しばしの間そのすばらしさに感動していました。満足 満足・・・そして、予定通り、昼過ぎに和佐又ヒュッテに到着。全員怪我無く無事下山することが出来ました。

ヒュッテで昼食のカレーを食べ午後1時に出発。帰る途中に「ホテル杉の湯」で登山の疲れを取った後、全員無事帰路に付いた。

特に会長に至っては、行き帰りの運転をして頂きお疲れさんでした。ズバリ、また行きたいです。

◆女性委員会 金比羅山



山 行 日：9月28日(日)

参 加 者：La 瀬尾 SLa 尾内 上川 田中(美) 平井(み) 苦瓜 峯山 森下 山本(清)

Lb 垣内 SLb 中村 赤松 香川 狩集 木村 田中(由) 開 宮崎

行 動 記 録：戸寺バス停(9:05 着)9:25 発～元井出橋 9:30～江文峠 10:00～金毘羅山(11:15 着)
11:45 発～翠黛山(12:25 着)12:35 発～寂光院(13:30 着)14:30 発～大原のバス停
(14:40 着)



京都北山金毘羅山

田中

女性委員会の山行で大原の里を歩いた。

ストレッチを済ませ、リーダーの瀬尾さんを先頭に歩き出しました。暫くは一般道の為、日照りも結構強く暑かったけど山に入ってから木陰が多く、風もさわやかで汗も夏山程



ではありませんでした。山道はアップダウンあり、獣道ありの変化にとんだコース。所どころ視界も開け、集落の家々や田畑を眺めながら気持ち良く歩を進めることが出来ました。

寂光院では人影もなく、苔むした静かな庭園を散策して心癒されたひとときでした。残念ながら時間の関係で、三千院はまたの機会となり楽しみを先送りするに・・・

リーダーさん・サブリーダーさん本当にお世話になりました。

◆小野アルプス縦走



山 行 日：10月4日(土)

参 加 者：La 須増 SLa 長谷川(孝) 内海 粕谷 嶋澤 宮崎 村上 山本(清)

Lb 山本(正) SLb 荘所 田中(武) 田中(重) 田中(美) 田中(由) 田羅間(勤)
前川(克)

Lc 佐々木 SLc 苦瓜 川上 坂田(俊) 清水 田羅間(易) 山下(純)

行 動 記 録：JR加古川線小野町駅(9:30 集合)10:00 発～鴨池駐車場(10:40 着)10:50
発～福甸(ふくでん)峠登山口(11:10 着)11:15 発～岩山(11:35 着)11:45
発～紅山(昼食・12:30 着)12:55 発～惣山(展望台・13:30 着)13:40 発～総
山(14:05 着)～アザメ峠(14:18 着)～アザメ峠登山口(14:23 着)～前山・N
TT中継所～トイレ休憩(15:15 着)15:25 発～白雲谷温泉ゆびか(15:50 着)



小野アルプス縦走の感想文

坂田

今日は、台風18号の影響で天候を心配していましたが、朝から好天に恵まれてほっとした。

JR加古川駅に8時40分に着きホームに1番着であった。その内に加古川からの参加者も揃い、9時10分乗車、小野町駅9時30分到着後、駅の横の公園で全員揃って、ストレッチ後、欠席者もあり3班に調整して10時に出発する。

道中は山行話や田園風景を見ながら歩き、鴨池駐車場に到着。先に乗用車で来ておられる方と合流し、紅山登山コース入口に着く。最初から、急な登りと下りを数回ばかり繰り返し、少々疲れる。栗の実や草花を見ながら、また、雑木林の山道を歩き岩場で休憩を取りつつ紅山山頂12時30分到着する。

紅山(182.8m)は岩場に紅い地衣類が所々に張り付いているところから紅山と言われているそうだ!

紅山の岩場から、山陽自動車道、権現ダム、平荘湖、高御位山を経て瀬戸内海を一望し、内海さんや他の人の案内を聞きながら昼食を取りました。

岩場の急斜面を下りるコースは有ったが、他のグループ2～3人が下りられたのを見たが危ないので、別の山道コースを選んだ。惣山(小野富士)～総山を歩いていると、下から吹き上げて来る冷たい風が体を心地良くしてくれ、元気が出て足も軽くなる。

標高150m。前後の7つのピークが連続する小野アルプスを縦走し、ロケーション抜群の天然温泉『白雲谷温泉ゆびか』に到着する。そして、ストレッチをして解散(16時)。

入浴の希望者10名は、汗を流して気持ち良く帰路についた。

リーダーさんはじめ、皆さんと一日を楽しく過ごさせて頂き有難う御座いました。



◆六甲 長峰山～摩耶山



山行日：10月7日(火)

参加者：La 野村 SL 苦瓜 赤木 狩集 田中(武) 田羅間(易)

Lb 瀬尾 SLb 大谷 青山 尾越 河合 田中(美)

行動記録：阪急六甲駅(9:00 着)9:05 発～長峰登山口(9:40 着)9:55 発～長峰山(11:15 着)11:30 発～穂高湖(12:10 着)～シェール槍(12:30 着)～穂高湖(昼食・12:45 着)13:10 発～摩耶・掬星台(14:00 着)14:10 発～行者堂(15:05 着)～雷声寺(16:10 着)



長峰山から摩耶山縦走 絶景めぐり

尾越

台風一過予想通りの青空、頂上からの景色を楽しみに阪急六甲駅から出発して、途中から住宅街の急坂を上がる。道沿いの六甲学院を眺めながら通学も大変だろうと要らぬ心配をし、登山口に到着。登山道には台風で落ちたアケビ、どんぐりの実、しば栗、イノシシも期待して出てきたのか登山道の辺りに掘り返した跡が延々と続いていた。

長峰山687, 7m頂上の天狗塚から360度見渡せる絶景ポイントでは、西はこれから行く摩耶山のケーブル山上駅、オテルド



摩耶の建物が見え、「あそこまで橋を渡してほしいなあ」との声、南は神戸市街からポートアイランド、北は六甲の山々、土日なら景色を眺めている人で混雑してゆっくりは出来ないだろうけど、今日は平日山行で天狗塚は貸し切り状態、記念撮影も終わり穂高湖に向かう。

杉谷峠で休憩、奥摩耶ドライブウェイを渡り、穂高湖を半周した辺りで「シェール槍」の案内板があり、やや足場の悪い岩場もあるが慎重に登れば約5分で登れる。ここも貸し切り状態で六甲山牧場の赤い屋根を見ると美味しい牛乳、ソフトクリームが頭に浮かぶ、眼下には今歩いてきた穂高湖、ここも360度の展望でした。

オテルド摩耶の前を通り、「摩耶の石舞台」の立派な銘板もある絶景ポイントに立ち寄りました。名前は2年前に「京都清水の舞台」に似ていることから名前がつけられたようです。

摩耶山掬星台からの登山道は山寺尾根、桜谷・徳川道、観音道、黒岩尾根、天狗道・地藏谷、と迷うほどありますが、今回は奥ノ院道から下山、奥の院跡の辺りに三角点のある摩耶山山頂、大杉大明神と崇められた「摩耶の大杉」、史跡公園(旧天上寺)～行者堂～旧摩耶道～新神戸駅まで約5km、ハードな歴史散策コースでした。

途中蛇が現れたり、マムシが出たりと事件もありましたが、お陰様で皆無事下山することができました。下山後のストレッチも登山口を少し下った眺めの良いところでできまして、ビュースポット一杯の歩きがいのあるコースでした。

リーダーをはじめ、参加者の皆様ありがとうございました。